

第65回日本産科婦人科学会学術講演会 シンポジウム1（腫瘍）

婦人科癌の浸潤・転移機構の 解明と臨床応用

2013年5月10日（金） 8時40分～11時40分 第1会場
座長：青木大輔教授（慶應義塾大学），片渕秀隆教授（熊本大学）

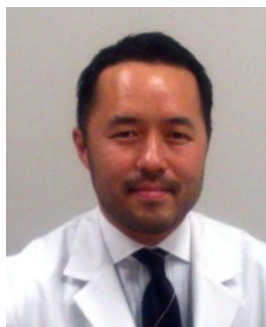
日本が誇る、次世代を担う4人の世界的な婦人科がん研究者の共演。婦人科がんの基礎研究の目覚ましい進歩と臨床応用の現実が明らかにされる。



織田克利講師（東京大学）

履 歴：1994年 東京大学卒業，1997年 東京大学医科学研究所（中村祐輔教授），2005年 UCSF癌研究所

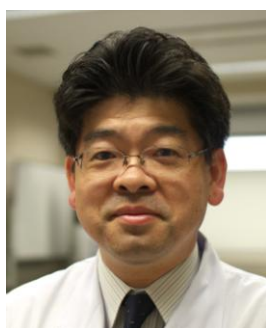
ひと言：臨床検体の遺伝子解析と分子標的治療薬の有効性をもとに、婦人科がんでの個別化医療の確立を目指して研究しています。



馬淵誠士助教（大阪大学）

履 歴：1997年 和歌山県立医科大学卒業，2004年 Fox Chase癌センター，2006年 カリフォルニア大学Irvine校

ひと言：趣味はテニス、料理、旅行。婦人科癌に対する分子標的治療の実用化を目指して研究を行っています。



柴田清住准教授（名古屋大学）

履 歴：1991年 岐阜大学卒業、1998年 名古屋大学大学院修了

ひと言：婦人科癌に特徴的な腹膜播種のメカニズムを多角的に検討し、腹膜播種の治療に一石を投じる独創性のある研究を推進しています。



中山健太郎講師（島根大学）

履 歴：1996年 東京医科大学卒業，1998年 東北大学加齢医学研究所，2004年 Johns Hopkins大学

ひと言：卵巣癌一筋。新規癌関連遺伝子NAC1を標的とした創薬を目指しています。趣味はサッカー（FW、2011年スポーツマスターズ全国大会出場）と水泳。